

これまでの議論を踏まえた文化財の一体的活用と 地域振興に向けた制度見直しの方向性(案)



文 化 庁

平成29年7月25日

基本的考え方 – 地域の歴史・文化の重要性

地域の歴史・文化の総体

地域社会が大切に守り続けてきたもの、受け継いできた資産

建造物、美術工芸品、記念物、埋蔵文化財など有形の資産
地域の生業や信仰、衣食住、年中行事等の風俗習慣
地域住民の生活様式、行動・思考方法
文化財修理にかかる技術や材料 など

地域の価値観や
アイデンティティを顕在化

地域の連帯感を育み
絆を維持する

個性ある地域づくりや、地域の発展、豊かな暮らしの礎に
(地域文化・地域社会・地域経済などの基盤)

地域社会の諸課題の解決にも寄与

伝統産業の
〇〇を復興
しよう！

地域産業の発展

文化的豊かさの向上

この町並み
を大切に
しよう！

景観
町並み行政

地域活性化
まちおこし

雇用・人口

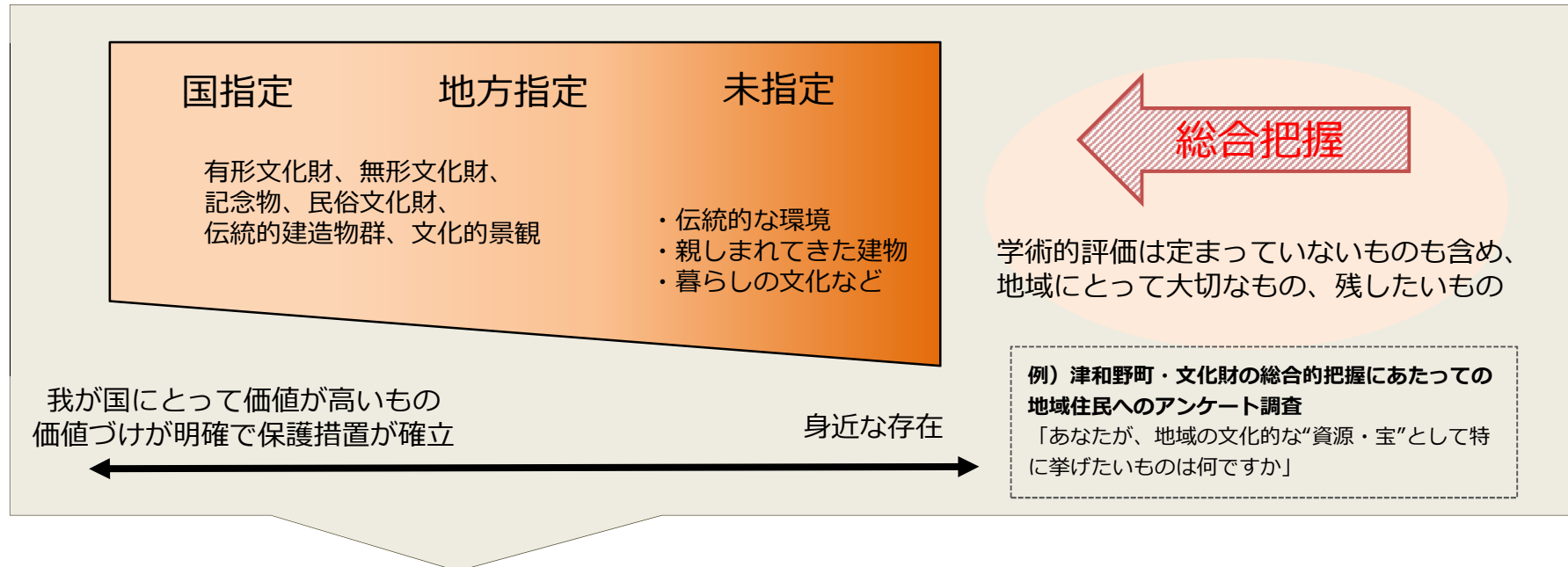
ふるさと学習

防災

伝統行事の振興
地域社会の繋がり

基本的考え方 – 文化財の総体としての再評価・再発見とその効果

- 地域の歴史・文化を形作る個々の資産には、指定物件にとどまらず、未指定文化財など地域にとって身近で、次世代に継承していくべき多くの歴史的・文化的資源が含まれる。
 - これまで価値が発見されてこなかったこれらの資源の重要性を再認識することが必要
 - 文化的豊かさの維持発展はもとより、地域社会・地域経済の活性化にもつながることに留意



地域の歴史・文化資源を一体的に再評価・再発見

→ その魅力発信が交流を生むなど地域社会・経済にも波及。地域を豊かにし保存と活用の好循環へ。

古民家とそれを囲む農山景観や
四季の行事など日本の原風景



写真提供：三好市

美しく保存された町並み、食・暮らし
など町の繁栄ぶりの追体験



写真提供：妻籠町観光協会

レンガ倉庫や土蔵群などの建物群、
若手の工房などで現代も交流拠点



写真提供：長浜市

信仰と密接に関連し山を歩きながら
社寺を巡り思想に触れる



写真提供：鶴岡市

見直しの方向性① – 地域共通のビジョンに基づく持続可能な取組

見直しの方向性

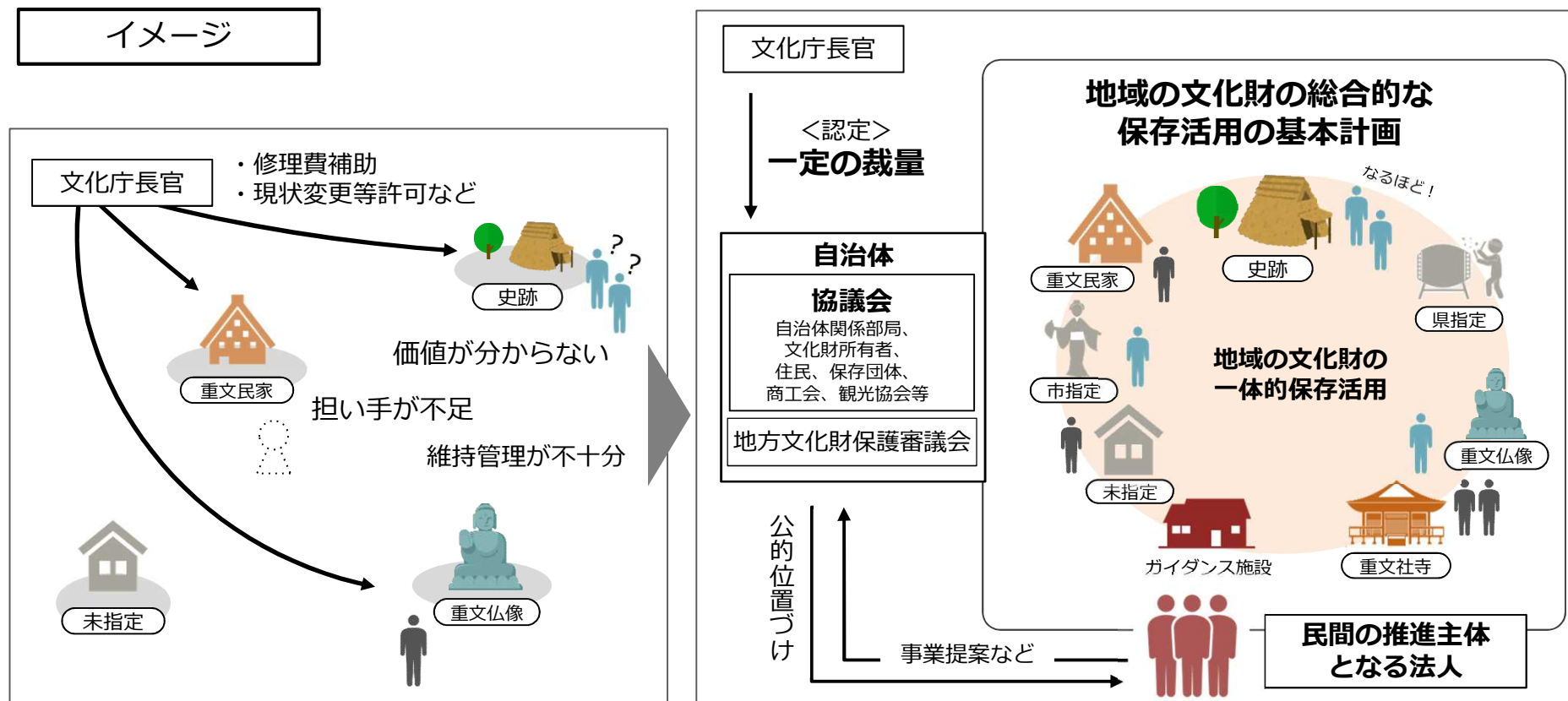
○地域の歴史・文化をまちづくりの核としたアクションプランの策定

- ・地域の目指す方向性・ビジョンを明らかにするとともに、地域の文化財を総合的に把握し、関係者が団結して一体的に保存活用するための基本計画を制度化。
- ・計画を国が認定し、自治体の一定の裁量で取り組めるような権限委譲などの仕組みを検討。
- ・計画に基づく取組への支援を検討するとともに、自立的で持続的な活動への発展を目指す。

○民間の推進主体となる法人の位置づけ

- ・全体の計画に基づき、自立的に事業を推進する事業体。
- ・基本計画に合致する取組を行うことを市町村が同意するなど、公的位置づけを明確化。

イメージ



見直しの方向性① – 地域共通のビジョンに基づく持続可能な取組 (基本計画(仮)と民間の推進主体となる法人(仮)について)

地域における文化財の総合的な保存活用に係る基本計画（仮）による取組のステップ

(必要な取組)

①地域の資源を把握する

- ・住民も参画し、地域の文化財を調査・整理
→地域にとって残したいもの、大切なものが見えてくる。

②把握された文化財を共有し、ビジョンを設定する

- ・残したいもの、地域の資源を見つめ直し、
どのように次の世代に継承・発展させるか考える。

③アクションプランを立てる

- ・地域資源の保存活用に向けた具体的な取組方針を決める。

④文化財の活用・プロデュース等を図る人材の参加を促す

- ・NPO、大学、民間企業等の技能・資金・知恵を活かす。

- 学術的な価値付け
→地域資源を地方指定や登録文化財へ
- 関係者間のネットワークづくり
- 地域防災・景観・都市農村計画・
国土開発等との連携
- 人材育成、魅力発信・普及啓発等

民間の推進主体となる法人（仮）の想定される活動内容

○文化財の活用・普及

- ・ガイド育成 ・体験プランの企画、実施
- ・街歩きツアー ・情報発信
- ・郷土学習 ・寄附・クラウドファンディング 等

○整備・開発

- ・案内版 ・休息施設
- ・遊休歴史的資源活用に向けたマッチング・事業化等

○保存修理

- ・修理整備の相談対応 ・歴史的建造物等の調査
- ・復元整備 ・清掃や維持管理 等
- ・研修

○付帯事業

- ・カフェ ・レンタルサイクル ・駐車場
- ・レストラン ・お土産・物産販売 等

見直しの方向性② – 個々の文化財についても地域主導でその価値を発信 (国指定等文化財のローカルオーナーシップ)

見直しの方向性

○保存と公開活用の方針・ルールに見える化（保存活用計画）

- ・所有者と外部の組織・人材が共働でき、相続等で所有者が変わっても確実に次世代へ継承できる仕組み。
- ・文化財の現況や、保存・活用にあたって考慮すべき留意事項・公開活用方針等を明確化。
- ・計画を国が認定し、一定の裁量の付与や、手続きを簡素化できるような仕組みを検討。

○所有者とともに公開・運営等を担う人材・組織の位置づけ

- ・文化財の維持管理や修理に関するアドバイスなど、所有者を支援する第三者的な組織・人材を位置付け。
- ・さらに、所有者に代わって文化財の活用をプロデュースしたり、自ら公開活用を実施。

イメージ

所有者単独での保護



- ・維持していくだけで精一杯
- ・「宝」のはずが「負担」に

応援団の形成で役割分担できる姿へ



- ・保存しながら公開活用し、住民や訪問者に身近で愛される地域の宝へ